

■ 北海道情報大学学内報 開学10周年記念号



(松尾記念館講堂)

● 目 次 ●

開学10周年記念特集 ……………2~7	CLUB自慢 ……………11
第一回中国語海外研修を終えて 玉置助教授 …8~9	主要行事 ……………12
ゼミナールちょっと拝見 ……………10	編集後記 ……………12

発行・北海道情報大学
〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134

—— 学園創基30周年、大学開学10周年 ——

記念式典、講演会、祝賀会が行われる

本学園は、昭和43年に北海道電子計算機専門学校を開校して以来30周年を、また平成元年、北海道情報大学を開学し10周年を迎え、これを記念して平成11年9月3日日本学において、式典並びに祝賀会等が盛大に行われました。

この記念行事については、昨年の9月7日に実施する予定で計画が立案され、その記念事業として松尾記念館を建設し、学生や教職員待望の図書館並びに大講堂、また本学の目玉となるコンピュータ教育施設等の整備を行ってきました。さらに故松尾三郎前理事長の情報教育への情熱と功績を深く顕彰するため、教職員と関係者が相寄って松尾記念館正面に平成10年8月立像が建立され、これに伴って記念式典等に必要の体制が整い計画は順調に進んで参りましたが、平成10年9月1日松尾前理事長の急逝により、記念行事を延期することが急きょ決定しました。

その後1年の歳月を経過し、松尾 泰現理事長のもとで、ようやく前記計画が実現の運びとなりました。その内容については以下のとおりです。

記念式典（会場：松尾記念館大講堂）



（来賓お出迎えの様子）

式典の開始に先立ち、ご来賓の方々による施設見学、学園創設者故松尾三郎前理事長の立像に対する献花等が行われた後、式典に出席されるご来賓の方々が会場に入場する際、入口に於いて松尾理事長、大野学長、久野学部長、岡本常務理事、今田事務局長がお迎えされた。

また、開式直前には司会者の発声で故松尾三郎前理事長を偲びその冥福をお祈りする黙祷が行われました。

式典は、文部省をはじめ政、官、経済、教育など各界から約250余名の来賓のご臨席を賜り午後2時に開始され、冒頭、松尾 泰理事長が演台に立ち、次の式辞を述べられました。



(松尾理事長)

式 辞

学校法人 電子開発学園 理事長 松尾 泰

本日、ここに電子開発学園創基三十周年および、北海道情報大学十周年の記念式典に、かくも多数の皆様方のご臨席を賜りましたことを、心より感謝致しますと共に、厚く御礼申し上げます。

本来であれば、本式典は、一年前に開催を予定しておりましたが、冒頭に皆様に黙とうをしていただきましたように、創立者松尾三郎理事長が急逝されたため、本日開催の運びとなりました。式典を楽しみにしておられた理事長ですので、さぞ心残りだったことと思います。

しかし、本日、この松尾記念館の前にたたずむ理事長の銅像は、皆様にお会いできたことを、大変喜んで、心なしか微笑んでいるように感じられ、万感胸に迫るものがございます。

本日の記念式典を無事迎えることが出来たのも、文部省の皆様、そして、ご列席の皆様方をはじめ、多数の各界の方々のご指導、ご鞭撻の賜と深く感謝申し上げる次第であります。

現在、我がグループはソフトウェア開発関連の株式会社エスシーシー、宇宙関連の宇宙技術開発株式会社、人材養成関連の電子開発学園、研究関連の北海道情報技術研究所、から形成されておりますが、特に電子開発学園はグループの重要な一翼を担っております。

さて、情報社会が我国に上陸したのは昭和三十五年です。我がグループはコンピュータが社会と産業の構造を変革して行く優れた技術であることを、いち早く見抜き、昭和四十年、ソフトウェア開発事業を興しました。

当時、コンピュータは時代の先端をいく技術で、仕事の引合いも多くソフトウェアの技術者は量および質の面で不足しておりました。また、日本のコンピュータメーカーも全て米国から技術導入している状態であり、我国の情報化は欧米に比べ全く立ち遅れている状態でありました。米国では、既に

情報人材育成が進んでいるのを目の当たりにしてソフトウェア技術者の養成こそが最も大事であると確信したのが、この電子開発学園創立の大きなきっかけでありました。

電子開発学園は、昭和四十三年、北海道千歳市に北海道電子計算機専門学校を開校したのがその第一歩であります。

現在、電子開発学園は、札幌、新潟、名古屋、大阪、広島、北九州、福岡、大分、鹿児島、全国九ヶ所十校という一大教育ネットワークを構築し、今日まで約五万人を超える卒業生を世に送り出して参りました。

また、私共の理念にご賛同いただき、教育ネットワークに参画していただいている「アソシエーション校」も秋田、仙台、茨城、千葉、山梨、静岡、兵庫、岡山の全国八ヶ所で活躍されています。

平成元年には、来るべき高度情報化、国際化時代に対応できる人材の育成を標榜し、北海道情報大学を、ここ、江別市に開学しました。平成六年には我国初めての通信衛星を使った通信教育部を開設、平成八年には大学院研究科を開設し大学の更なる充実を図り、常に我国の情報教育の先駆的役割を果たすと共に新しい教育の扉を拓いてまいりました。信念と勇気を持って時代に真摯に対峙することの重要性を改めて再確認させられた三十年であり、十年であったと思います。

情報社会の急速な発展の中にあり、常に先を見た人材育成を行って行かなければ時代をリードすることは出来ないでしょう。二十一世紀を目前に控え真の人材教育の必要性は益々増大していくものと確信しております。

ベルリンの東西の壁が崩壊して十年、国際化は益々進み、インターネットの普及は世界中の情報をボーダレス化しています。正に地球は一つであり、今や国際的視野を持った人材が必須となっております。我国の国際情報化に貢献できる人材輩出が電子開発学園及び北海道情報大学の使命であります。

我がグループでは情報処理技術関連での国際交流を長年、米国、印度、台湾、中国、韓国等と続けてまいりましたが、大学においては本年五月に中国の南京大学との国際交流協定を締結して参りました。そして、この八月には記念すべき第一回の短期留学を成功裡に無事修了することが出来ました。これを機にこれからの国際化に即した真の国際交流を活発に行っていきたいと考えております。

二十一世紀を控え、国際社会は新たな世界秩序の構築、安定、平和の実現に向けて変化しなければならない大きな歴史の節目を迎えています。

私共学園は、本日の記念式典にあたり、これからも常に時代を先取りし、時代に即応した情報教育の世界を拓きこの国際情報社会に貢献していきたいと念じております。

電子開発学園、北海道情報大学は、来る二十一世紀に向けて大きく飛躍してまいります。

どうか本日ご列席の皆様方におかれましては、今後とも、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

最後に、本日ご列席の皆様方の益々のご健勝を祈念して私の式辞とさせていただきます。

平成十一年九月三日

次に来賓の祝辞として、最初に有馬文部大臣臨時代理真鍋賢二様の祝辞を文部省高等教育局私学部学校法人調査課長和氣太司様が代読され、続いて、衆議院議員外務政務次官町村信孝様、衆議院議員倉成正和様、北海道知事堀達也様、最後に北海道大学総長丹保憲仁様の祝辞を北海道大学附属図書館長の原暉之様が代読、以上5名の著名な方々からの祝辞を頂戴し学園創基30周年、大学開学10周年記念にふさわしい厳粛な式典となり午後2時45分に終了しました。

記念講演会(会場:松尾記念館大講堂)



式典終了後、午後3時から文部省メディア教育開発センター所長坂元 昂先生による記念講演が行われました。

坂元先生は、東京大学人文科学研究科を修了後、東京工業大学に長期間奉職され、現在は我が国における教育工学会の第一人者として、また文部省の情報関係、その他各種委員会の委員等の要職に就かれております。

講演は「21世紀の高等教育における情報活用のあり方」と題し、先生の豊富なご経験と実績を織り交ぜながら約1時間にわたりお話しされ、式典出席者や一般社会人など300名を超える聴講者が期待したとおりの極めて有益な講演でありました。

記念祝賀会(会場:本学体育館)



(謝辞を述べる大野学長)

記念祝賀会は、記念講演終了後、午後4時10分から本学体育館に於いて開催された。

司会者から開会の辞があり祝賀会が開始され、はじめに大野公男学長から祝賀会の開催に際してご出席をいただきました来賓に対し、謝辞と併せて本学園の運営について日頃から特にご支援、ご指導をいただいたお礼と今後も従来と変わらぬ一層のご教示を願いたい旨の挨拶が行われた。

引き続き来賓を代表して、日本教育工学振興会会長(元 筑波大学学長)宮島龍興様、北海道尚志学園理事長(元 北海道大学学長)有江幹男様、東京三菱銀行相談役(元 三菱銀行頭取)岩井恒雄様の各氏から祝辞を頂いた後、鏡開きの行事に移り壇上に用意した三つの菰樽を来賓等の中から次の14名が代表となり司会者の音頭により鏡開きが行われた。

【鏡開き参加者】

文部省高等教育局私学部学校 法人調査課課長	和氣 太司 様	江別市市議会議長	赤坂 伸一 様
日本教育工学振興会会長	宮島 龍興 様	三菱マテリアル株式会社 常勤監査役	小林 孝 様
東京三菱銀行相談役	岩井 恒雄 様	青山法律事務所所長	青山 周 様
江別市長	小川 公人 様	株式会社エスシーシー 専務取締役	角田光一郎 様
文部省メディア教育開発 センター所長	坂元 昂 様	学校法人電子開発学園	松尾 泰 理事長
北海道大学附属図書館長	原 暉之 様	北海道情報大学	大野 公男 学長
北海道尚志学園理事長	有江 幹男 様		
監査法人トーマツ 元会長	南 光雄 様		

鏡開きが行われた後、江別市長小川公人様の祝杯の音頭により祝宴が開始された。

祝宴の状況を見て、記念式典に寄せられた多くの祝電の中から次の方々への電文が拝読され、残りの祝電については、時間の都合でご芳名のみが披露された。

【祝電披露者名】

内閣総理大臣	小渕 恵三 様
文部省高等教育局長	佐々木正峰 様
日本私立学校振興・共済事業団理事長	戸田 修三 様
日本私立大学協会北海道支部長	森本 正夫 様
前参議院議員	柳川 覺治 様
東京三菱銀行頭取	岸 暁 様

電文の拝読が終了し、祝宴も終始なごやかに進んでいましたが、祝賀会終了の時間も迫って参りましたので最後に北海道中央バス株式会社代表取締役会長中川利若様の音頭により万歳三唱が行われ午後5時35分祝賀会を無事終了した。



(鏡開きを行う来賓の皆様)

以上をもって、電子開発学園創基30周年記念行事を終了いたしました。

学園発足以来、30年の歴史の流れの中に故松尾三郎前理事長から、そしてまた、松尾 泰現理事長へと父子二代にわたり、情報化社会における人材育成への情熱を継承し、困難な学園の未来の発展に努力される理事長を、教職員が協力して大きな支えとなっていくことが極めて必要である。

第一回中国語研修を終えて

— 南京大学と中国旅行での体験記 —

教養課程・助教授 玉置重俊

今年の5月に、本学と南京大学が学術交流協定書を締結したことを契機として、早速学長や法人の理事から、「準備期間は極めて少ないが、とにかく玉置先生が先頭にたって、今年度の夏期中国語研修の具体的な実施計画案を作製してください」と頼まれてしまった。南京大学は私が15年程前に留学していた母校であり、そこには現在も恩師や知人がかなりいるので、私は「分かりました。できるだけことはやってみます」と答えた。ただ、その後の準備作業においては、海外での初めての語学研修の実施であったため、私自身にも未経験の仕事が少なくなく、試行錯誤を繰り返しながら、研修のための様々な準備と仕事に取り組むこととなった。したがって、6月からは、私は各種の文書作りと旅行代理店との打合せに追回され、また自宅のファックスを使いながら、何回も南京大学と受入れ確認・学費・旅行費・ビザ・宿舎の予約などの件に関して、詳細な連絡を取り合った。とにかく、学内でのピーアール期間が全く不足したので、経営情報学部からは二名だけが応募したのみだったが、幸いに通信教育部の学生が積極的に応募してくれ、私も引率教員に命ぜられて、何とか南京大学での記念すべき第一回中国語研修が実現した。研修先は、南京大学・海外教育学院で、参加学生は12名、研修期間は8月5日～28日(24日間)であった。実現のめどがつくまでの沢山の苦労話は、またどこかで詳細に報告するとして、この紙面では、中国に入ってから楽しく(苦しく?)、感動的な研修と旅行の具体的な話を述べてみたい。

まず、我々は8月5日に福岡と成田から、二つの旅行団に分かれて中国東方航空で上海に到着した。先発の福岡組には、南京大学長期留学生の東君をガイド役として乗せ、今後の研修と旅行における学生のお世話を正式に依頼した。当日は、南京大学がマイクロバスで、飛行場に出迎えに来てくれた。研修学生は、全員初めての中国訪問なので、夜8時半より、ホテルの私

の部屋で、第一回目のミーティングを開き、今後の研修に関する詳細な注意事項を伝達した。その後は、各学生になぜこの研修に参加したのかを話してもらい、各自の自己紹介もさせた。6日、上海観光(外灘・豫園・上海自然博物館など)後、蘇州に到着。7日、蘇州観光(寒山寺・留園・虎丘など)後、南京に到着。8日、午前は、南京観光(中山陵・明の孝陵など)をする。午後は、海外教育学院が本学の学生のために、正式の歓迎会及び入学式を開き、南京大学の紹介と中国語の授業の進め方などを詳しく説明した。夕方は、南京大学における第一回目の中国語研修なので、本学の主催で交歓会を開いた。本学からは、久野学部長、中居理事も出席された。9日、きょうから、中国語研修が始まる。今回の参加学生のなかには、中国語未習者が十名いるので、南京大学は彼らのために中国語入門の特別クラスを編成してくれた。そのクラスには、中国人の先生がお二人ついてくださる。ただ、先生たちは日本語をほとんど話さず、すべて最初から中国語で話すので、中国語の全く分からない学生たちが、どのようにして授業を吸収し、消化していくのか、この点が、やはりとても興味深い、大きな実験となってしまった。中国語を既習している二人の学生は、他の大学の学生に混じって、別のクラスで勉強する。



(寒山寺にて(蘇州))

また、研修期間中の14日には、全員がマイクロバスで揚州観光(瘦西湖・大明寺・鑑真紀念堂など)へ行く。20日、きょうで、学生の2週間の中国語研修は終了した。夕方の歓送会は、南京大学が主催してくださり、留学生部の謝副主任から、学生が一人ずつ修了証書と記念集合写真を頂き、とても嬉しそうであった。学生たちは、全員で歌を唄い、写真を撮り、そして習った二人の先生に個人的なプレゼントを送ったり、覚えてたの中国語で感謝の気持ちを現したりと、極めて感激していた。因に、本学の学生に対する中国の先生の印象は、かなり良いもので、まじめで熱心であると述べて頂いた。私も、ほっと一安心し、本当に嬉しかった。

8月21日、きょうから、修学旅行である。南京大学の二人の女性教師も、添乗員として我々に同行して下さる。寝台車の空いている所に、大きなトランクを押し込んで、先ずは西安へ。初めての汽車の旅なので、学生たちは興奮気味。22日、早朝、西安到着。午前10時半より、西安観光に出る。半坡遺跡・華清池・秦の始皇帝兵馬俑博物館・碑林博物館などを見学し、夕方は劇場に造られた特設食堂でギョーザ料理を頂く。そこで、陝西省舞踊団の素晴らしい踊りと音楽を堪能する。23日、午後は、空海にゆかりの地である青龍寺を訪れる。日本の有名な僧侶たちが幾人も、ここで修行をしていたと考えるだけで、胸が熱くなる。学生たちは、見学の記念に記帳する。夕方、西安駅に向かい、北京行きの寝台車に乗り込む。今度の列車は、トイレもきれいでエアコンもあり、快適である。

さて、24日早朝、北京西駅に到着。午後から、頤和園を見物する。公園の中は広く、階段も多いので、みんな汗びっしょりだが、ミネラル・ウォーター持参の姿が様になっている。25日、午前8時半から、マイクロバスで万里の長城へ向かう。一時間半で長城に着いた。みんな元気に、右と左に分かれ、登れる所まで登り始める。勾配も強く、登るのは決して楽ではない。ここを一番楽しみにしていた学生も、多いと思う。26日、天安門広場と故宮見物に行く。学生たちは、街頭や露店での中国人との値引き交渉がとても楽しいようで、みんな少ない語彙力ながら、懸命に頑張っている。だいぶ中国そのものに慣れてきたという感じであり、とても頼もしい気がした。夕方、夜行で上海に向かう。

27日午前、上海着。午後からは、遊覧船に乗り、黄浦江沿岸の繁栄する上海を見物した。夕方は、三時間の自由行動を設けた。みんなお土産を買うために、精力的に上海の街へ繰り出した。夜



(天安門広場にて(北京))

はホテルで、学生全員を私の部屋に集めて、今回の研修と旅行の感想を話してもらったが、もう涙ぐんでいる学生もいた。28日早朝、とうとう帰国の日になってしまった。何人かの学生は、昨夜は一睡もしていないようだ。空港に着いて、中国の先生や友人と別れるときには、ほとんど全員の学生が突然沈黙し、そして大泣きに泣いてしまった。なぜなのか、その理由は私には明確には分からなかったが、今回の研修と旅行が彼らの心に与えた影響と衝撃は、やはり小さくはないのであろう。私も、初めての中国語研修がこのように感動的に終われるとは、予想もしなかった。とにかく、研修の期間中、参加学生が大きな事故や病気に会わず、順調に所期の目的を完遂して、全員が元気に帰国できたことを、心から運命の神様に感謝しなければなるまい。

上述のように、かけ足で研修と旅行の日程を紹介してみた。我々の中国での活動内容が、少しはご理解頂けたことと思う。なお、帰国後は、参加学生にアンケート調査や感想文を提出してもらったが、おおむね全員が、生涯の思い出に残る、最高に楽しくて有意義な中国語研修だったと評価してくれた。もちろん一部の不満もあり、修学旅行は日程が詰まりすぎていて、興味のある場所をゆっくり見学できなかったとか、あまりにも自由時間が少なかったと指摘された。これらの不満は、来年度への課題でもあるし、またスケジュールなどの見直しができるれば、何とか改善できるように思える。来年は、本学の中国語履修学生が一人でも多く、このような本学独自で企画した、有意義な語学研修に積極的に参加して、各自の語学力を一段と向上させるとともに、各自の教養や視野も大いに広げて頂きたいものである。最後に、この研修にご協力くださった方々に、心からお礼を申し上げたいと存じます。本当に、ありがとうございました。



3年 気田 昌寛

長井ゼミは、3年生が11名、4年生が何名いるかわかりません。私達3年生は4年生と一度もあったことがないので、何人いるのかもわかりません。

ゼミの内容は、「会計学」について学んでいて、現在は、「連結財務諸表原則」について、旧原則と改訂原則との違いなどについて学んでいます。ゼミの流れとしては、毎回1~2人の学生が「連結財務諸表原則」についてのレポートを作成して発表し、それについて他の学生が意見や質問などを出してそれを解決していくという流れです。

このような内容や流れを聞いてみると、すごいことをやっていると思います、実際は「連結財務諸表原則」について完全に理解している学生は一人もいないと思います。はっきりいって、全員がほとんど理解していないと思います。少なからず、私は全然理解していません。

長井先生は、すぐに「コンパしよう」とか「焼肉しよう」とか言いますが1度もしたことはありません。学生達は、あまりやりたがらないからです。

長井ゼミナールは、こんなゼミです。



長井ゼミナール



外山ゼミナール

書け。

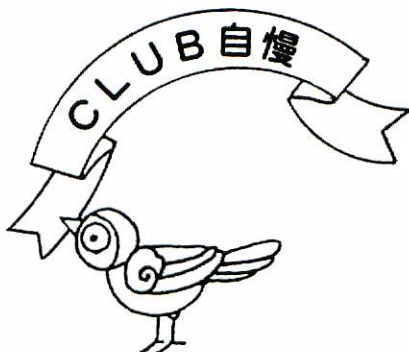
この死の宣告が私に下ったのは、陽気な日が照らすお昼前である。

このゼミでは厄介な事、イベント企画モノは全て私に押し付ける。少し悔しいので、この場を借りてささやかな復讐を考える。

テーマはゼミ紹介。でも関係ない。私はこの為に生きている様なモノ。邪魔する人は何者であろうと呪います。悪シカラズ。

先ず最初に紹介するのは吉田氏。氏はとても物静かな学生であるが、その胸中には巨大な野望が渦巻いている。次に紹介するのは阿部大介氏。彼は最近学校に来ていない。果たして生きているのだろうか。次は市原さん。彼は4年生になって、早くも幽霊ゼミ生である。次は管沢様。彼はとても優秀な学生で、パソコンに関することはとても詳しい。しかし、それが過ぎてしまった為にパソコンオタクに成りつつある。次は奥篤志殿下。彼は一言で言ってゲーマーである。次は武下氏。彼は食べ過ぎに注意した方が良かった。次、本宮君。彼の存在感は限りなくゼロに近い。次に菲沢氏。ロン毛の彼は自分のことを木村拓哉と勘違いしている。次に三島氏。彼は暗い。彼の側では懐中電灯が必要だ。次に3年生だが、かくスペースが無いので省く。最後に我らが外山先生。先生の武器は皆さんご存知の通り、マシンガントーク。きっと誰も逆らえないだろう。結局、私のゼミは奇人変人の巣窟であるのは間違いないだろう。





コンピュータ・オペレーティング クラブ

部長 2D2 遠藤 修士

我々「コンピュータ・オペレーティング・クラブ」略称「C・O・C」の活動要項は主に「パソコンを使った創作活動」です。

それくらいはクラブ名から容易に推測できる・・・かできないかは微妙な所ですが、まあ具体的には「CG描き」「プログラム」「作曲」それらを組み合わせた「ゲーム作成」とかそういった事をやっています。

部室の大きさの割にやたらと部員の多い部ですが、活動時間も個人の自由なら作品の納期も自由、よって普段はなかなかのんびりとした部活です。



部室で作業している人間もいれば、自宅で作品を創って来る人間もいる、またその内容もさまざまとくればなかなか全体的な活動は難しいですが、無いワケじゃないです。

現在は大学祭への出展を計画しています。まあ、たいしたものは有りませんが、興味を持たれた方は是非足をむけてみて下さい。

軽いイベントなんかも用意してみます。

あとは・・・今、部のホームページ作っています。タイトルは「The COC」。

そのまんまですね。

アドレスを宣伝する良い機会なんですけど、まだそこまで決まってません。残念。

でも今年中には完成させる予定です。

いろいろと書きましたが、まだまだ部活動としては発展途上です。これからは発表の場もどんどん増やしていきたいと思います。

今後のCOCとその作品に御期待下さい！



軟式野球部

主将 2C2 佐橋 辰二

梅津先生率いる我が軟式野球部は部員男子27人女子マネージャー11人の計38人で活動しています。部長は3年生から2年生へと移り変わり4、3年生は引退していますが、イベントやプライベートでも関係しています。新キャプテンの2年生はとても怒りっぽくて短気ですが、実は良い人なのです。新チームは弱いですが、前回のリーグ戦では準優勝(2部)でしたが、新チーム

はそんな風にはならないと思います。だからという訳でもないですが2年の名サードよ！戻ってこい。(K藤君)あと1年と2年のK西君もついでに戻ってこい。あとMも大Mも。チェゲラー。しかし別に勝っても負けてもいいのだ。いいのか!? いいと思う。楽しく野球ができるなら全然アバンチュールだと思います。ここで軟式野球部の方針を今この場で決めようと思います。方針は「心にしみる雨の様に酒になれ」です。僕ら軟式野球部はいつでも部員を求めているのでこの時期からの入部者も大歓迎します。あとカムバックもオッケーです。っていうかカムバックしてこい。そんなこんなで僕らは来季の大会で優勝し、1部リーグに上がるのを目標にがんばっていきたいと思います。あと1年生につぶやくのが大好きな方がいるので、その相手をできるひとり言、つぶやくのが大好きな人も募集。とにかく軟式野球部は野球だけでなく、国内旅行はもちろんのこと武蔵野女子大(東京)や常磐女子大、短大(茨城)との合コンやいろいろイベントもあるかもしれないのでグローバルなヒューマン。

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

☆ 法人本部 ☆

◇職員人事◇

9月30日付退職
経理課 西保 秀子
東京事務所 佐藤 信子

◆◆ 7月～10月主要行事 ◆◆

☆ 大 学 ☆

7月9日(金) 教授会
8月27日(金) 教授会・教職員健康診断
9月7日(火) } 情報処理学会
8日(水) }
11日(土) 大学院選抜試験
17日(金) 教授会
10月8日(金) 教授会

☆ 法人本部 ☆

9月3日(金) 電子開発学園創基30周年
北海道情報大学開学10周年記念式典
講演・祝賀会

☆ 通信教育部 ☆

<スクーリング>

7月1日(木) 広島 10月1日(金) 全国
～3日(土) ～3日(日)
7月2日(金) 札幌・新潟 10月8日(金) 札幌・新潟
～4日(日) ・名古屋 ～10日(日)
7月9日(金) 全国
～11日(日) 10月22日(金) 全国
7月16日(金) 札幌・名古屋 ～24日(日)
～18日(日) ・福岡・大分 10月29日(金) 札幌・大阪・
8月2日(月) 夏期 ～31日(日) 福岡・静岡・
～21日(土) スクーリング 山梨
9月10日(金) 北九州 10月30日(土) 新潟
～12日(日) ～11月1日(月)
9月24日(金) 千葉・静岡
～26日(日)

<メディア授業>

7月19日(月) 前期 9月6日(月) 後期
～26日(月) 科目試験 放映開始
10月1日(金) 平成12年度
志願受付開始
<印刷授業>
9月1日(水) 前期科目試験 10月29日(金) 第1回
～5日(日) 入学選考

◆◆ 広報活動 ◆◆

☆ 法人本部 ☆

7月31日・8月29日 オープンキャンパス
8月～9月 テレビCM(スポット) STV、HTB
4 プラメガビジョン

* 校内ガイダンス *

7月7日 札幌白陵高校 9月8日 根室高校
7月12日 札幌新陽高校 10月4日 札幌篠路高校
7月22日 とわの森三愛高校 10月7日 札幌稲西高校
8月24日 札幌東陵高校 10月20日 室蘭栄高校
9月2日 留萌高校 10月25日 札幌創成高校
9月3日 北広島西高校

* 北海道情報大学・北海道電子計算機
専門学校合同入試説明会 *

10月12日 帯広会場 10月19日 函館会場
10月13日 釧路会場 10月20日 青森会場
10月14日 北見会場 10月21日 弘前会場
10月15日 旭川会場 10月22日 八戸会場

* 業者企画進学相談会 *

8月24日 道内5会場 9月7日 東北等11会場
～30日 ～10月2日
9月8日 道内9会場
～21日

* 高校訪問 *

7月5日 岩手県 9月26日 青森県
～8日 ～10月7日
7月13日 秋田県 10月4日 札幌近郊・
～16日 ～29日 道内近地
8月26日 道内遠地
～9月22日

◆◆ 主な来校者 ◆◆

7月7日(水) 大阪ガス 私学校セミナー
7月28日(水) 新潟電子計算機専門学校 研修旅行
9月14日(火) 江別市中学校・高等学校校長連絡協議会研修
9月20日(月) 岩内高校進路研修
9月21日(火) 学校法人 関西大学
立命館大総合情報センター 2名
10月21日(木) 旭川南高校PTA研修

編 集 後 記

木々の葉も色づき、すっかり秋めいてきました。うだるように暑かった夏がうそのように、朝夕は涼しいのを通り越し寒いと感じるようになりました。理屈ではわかかっていても、同じ場所において春には花が咲き、冬には雪が降るといふ自然のサイクルが不思議に感じられます。今回のななかまどは、開学10周年記念式典の模様を特集いたしました。このあいだ開学したのに、もう10年なのかと思うと、あまりの時の流れの早さに、喜んだり驚いたり複雑な気持ちです。世は口を開けば少子化といわれ大学の危機も叫ばれています。時代と次元は違っても、かつて「産めよ増やせよ」という時代もありました。ここにも時代の変化を感じさせられます。開学20周年を迎えるとき、時代はどう変わり、本学がどう発展しているか、期待と不安でいっぱいです。なにはともあれ、開学10周年記念式典、おめでとございました。(S)

北海道情報大学学内報
「ななかまど」第14号
発行日 平成11年11月1日
発行 北海道情報大学
編集 学内報編集委員会